



アマランス

- アマランスフェスタ2014を開催しました 1
- 特集
「今、あなたが思うワーク・ライフ・バランス」 2、3
- トライあんぐる
～我が家の「ライフスタイル」～ 4
- パートナーシップ推進週間にかかる受賞作品 4

♪ アマランスフェスタ2014を開催しました ♪

長崎市では、10月1日からの1週間を長崎市男女共同参画推進条例の施行を記念して「長崎市パートナーシップ推進週間」とし、「アマランスフェスタ」を毎年開催しています。今年は、10月4日と5日の2日間にわたり、「アマランスフェスタ2014」を開催し、延べ800人の皆さまにご来場いただきました。



1日目は、アマランスの登録団体や運営協力委員等の企画・運営による講座、相談、体験、イベント、バザーなど多彩な催しがあり、その中で『育(いく)ボス講座』や『男女共同参画サミット』などの男性向けに企画した講座では、「人生観が変わった」「家庭と仕事の両立が大切」「コミュニケーションが大事」などの感想を男性参加者からいただきました。また、女性限定の講座『息抜きヨガ』では、「リラックスできた」「心も体も軽くなった」などの感想が寄せられ、満足度の高い講座となりました。



2日目は、場所をメルカつきまち市民生活プラザホールに移して、「男女イキキ企業表彰」「パートナーシップ推進週間にかかる受賞作品(あいうえお作文)の紹介」と、僧侶でアナウンサーである川村妙慶さんによる基調講演「思いのままからあるがまま～心の荷物、おろしてみませんか～」を行いました。

講演では、人と自分を比べるのではなく、それぞれが自信を持つこと。自分らしい生き方を見つけるため、「聞くこと」そして「伝えること」の大切さをもう一度、見つめ直す必要があること。その際に「ありがとう」と「ごめんなさい」という2つの言葉で、相手に感謝の言葉を伝えることにより、自分の心も軽くなることを述べられたところ、多くの方が共感されていました。



講師：川村 妙慶さん

男女イキキ企業表彰

性別にかかわらず、誰もが働きやすい環境づくりを実践し、働く人も会社もイキキとした会社を「男女イキキ企業」として表彰しており、今年は2社を表彰しました。

長崎大学病院

- 平成23年に「働きやすい病院評価・認証事業」認証を大学病院として、全国で2番目に取得し、長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンターを設置するなど、仕事と生活の両立を支援している。
- 病院運営会議に女性が参画しており、女性の意見を経営に反映している。
- 医局により、休暇を取得しやすい工夫をしている。
- あじさい保育園の設置、保育・託児サービス「イブニングシッターサービス」を行っている。



株式会社 日本政策金融公庫長崎支店

- 女性活躍指針活動計画を策定し、女性職員が中心となり女性活躍セミナープロジェクトチームを発足し、女性の活躍を推進する活動をしている。
- 職員向けのワーク・ライフ・バランスに関する研修会を開催し、職場のワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んでいる。
- 社外に対しては、女性の起業を支援する取り組みとして、起業する女性に有利な融資制度を創設、また、相談コーナーの開設やセミナーを開催している。



なお、2社の表彰内容については、アマランス玄関ロビーでの展示並びにアマランスのホームページにも掲載していますので、どうぞご覧ください。

「アマランス」とは、ギリシャ語が語源で、常花(とこはな)という意味です。古代人の中では、アマランスが永遠にあざやかな深紅色の花をつけ咲き続ける不死性の象徴とされたことから、一人ひとりが生き生きと活動したいという願いが込められています。

トライあんぐる

～我が家の「ライフスタイル」～

私は高校を卒業後に今の職場に勤めて、昨年勤続20年を迎えた。ご存知ない人も多いと思うが支払基金とは、全国の各都道府県に支部があり、医療費の審査支払業務を行っている。医療保険制度を支える専門機関であり、民間法人と位置づけられる。

私は労働組合の支部執行委員長を務め、働きやすい職場環境と雇用の確保、男女共同参画の実現を目指し日々取り組んでいる。妻も同じ職場で、小学生2人と保育園児との5人家族である。

昨今、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進というが、我が家はどうであろう。総務省統計局の平成23年社会基本調査によると、家事の平均時間は男女で大きな差があり、女性の3時間35分に対し、男性は42分ということであった。私の家事時間はどうか。独身時代に、一人暮らしの経験があるが、結婚し子どもが増えるにつれ、掃除・洗濯等の家事時間は減少していないか。共働きで余裕がない毎日で、職場の同僚や、お互いの両親にも助けられ

てきた。家事と仕事の両立は大変だが、オンとオフの切り替えを大事にし、今しかない子どもたちとの貴重な時間は大事にしている。また、子どもの想像力や記憶力には驚かされてばかりで、家族に教えられたり学ぶこともよくある。

今年の夏に東日本大震災の被災地を視察する機会があったが、地震や津波などの自然の力に驚異を感じた。何気ない普通の生活、暮らしがどれだけ幸福なことか。昨年長女が、学校で昼休みに足を骨折。今年に入り長男が、車と衝突事故。幸いかなり傷程度であったが、病気怪我なく健康に過ごせることが一番だと改めて感じた。

人生も折り返しに入り、白髪もチラホラと気になるところだが、広く大きな海のような心で、子どもたちとも接し、家族への感謝の気持ち、ありがとうの一言を言葉にすることを常に意識していきたい。

後悔のないよう何事にもチャレンジし、家族みんなで手を取り合い、助け合い、支えあって、これからも充実した生活を送りたいと思う。



末岡 大輔さん

社会保険診療報酬支払基金長崎支部勤務

昭和49年生まれ
雲仙市出身/長崎市在住

平成5年、社会保険診療報酬支払基金長崎支部へ入所。医療費の審査支払業務並びに労働組合支部執行委員長として、ワーク・ライフ・バランスに取り組み中。趣味は、ドライブとショッピング

パートナーシップ推進週間にかかる受賞作品(あいうえお作文)

パートナーシップ推進週間にちなんで「性別にかかわらず、その人の個性や能力を発揮できる男女共同参画社会の実現」をテーマに『ポジティブ』を頭文字にしたあいうえお作文を募集しましたところ、たくさんのご応募をいただき、その中から最優秀賞、優秀賞が次のとおり選ばれました。

【最優秀賞】

- ポ テトサラダは
- ジ しん(自信)があるよと
- テ つだ(手伝)ってくれる
- イ つもやさしい
- ブ きよう(不器用)なあなた

山口 京子さん

【優秀賞】

- ポ ンボンと
- ジ ゅんび(準備)なしでも
- テ つだ(手伝)おう
- イ たわり合っ
- ブ イ(V)サイン

内野 明美さん

なお、パートナーシップ推進週間にかかる受賞作品は、アマランス玄関ロビーでの展示並びにアマランスのホームページに掲載していますので、どうぞご覧ください。

【編集後記】 家庭における男女の役割を明確に区分することはなかなか難しいですが、お互いの立場を理解し、声かけをしながら歩み寄り生活をしていくことが、明るい社会へと繋がる一歩となると思います。(睦)

発行 ■平成26年12月 編集 ■長崎市民局市民生活部人権男女共同参画室・長崎市男女共同参画推進センター
〒850-0874 長崎市魚の町5番1号 TEL.095(826)0018 FAX.095(826)2244
ホームページアドレス ■http://www.city.nagasaki.lg.jp/shimin/190000/193000/p000374.html
E-mailアドレス ■jinkendanjo@city.nagasaki.lg.jp

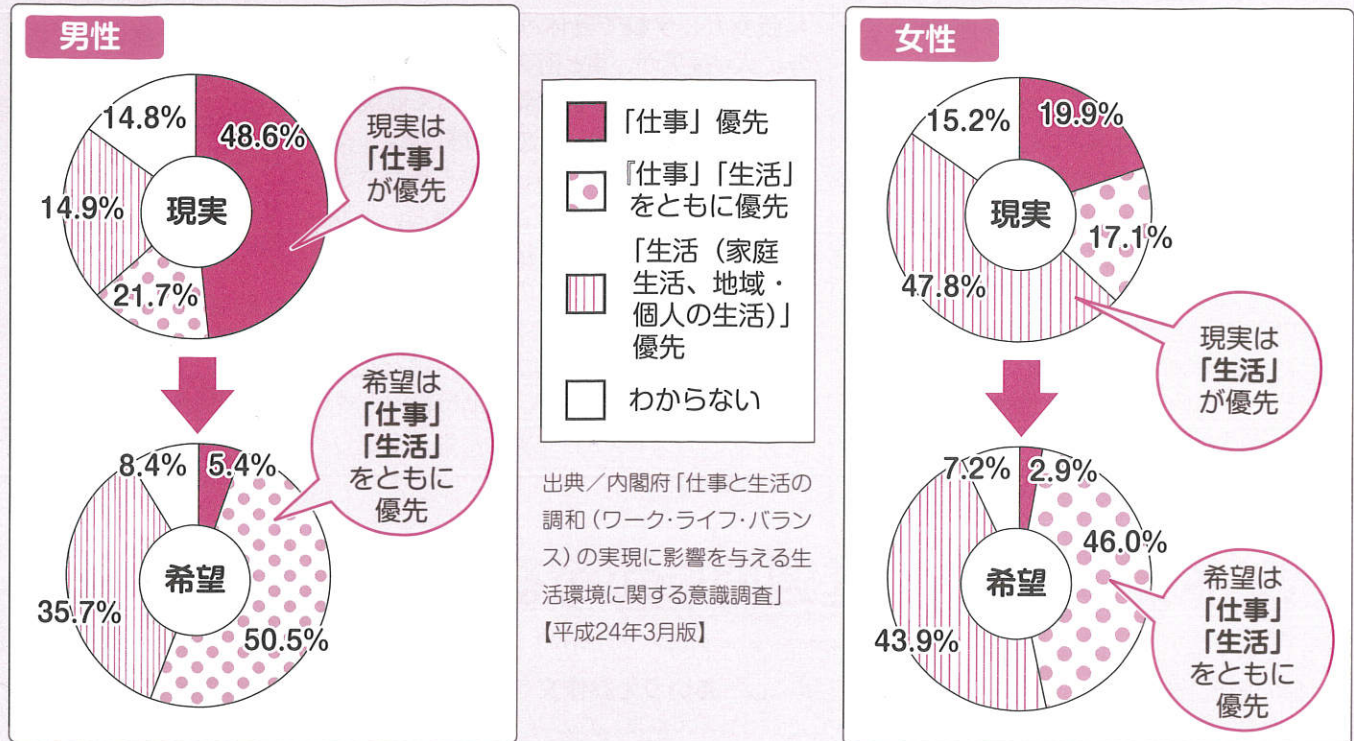


今、あなたが思うワーク・ライフ・バランス

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を聞いたことがありますか？「耳にしたことはあるが、よくわからない」という人が多いようですが、「ワーク・ライフ・バランス」とは、『仕事と生活の調和』という意味です。やりがいや充実感を得ながら、仕事上の責任を果たす一方で、子育て、介護、地域活動、自己啓発などにかかる個人の時間をもち、健康で豊かな生活がしたいと多くの人が願っていますが、現実には思いどおりにはいかないようです。

1 ワーク・ライフ・バランスの現実、男女でどうなっているのでしょうか？

内閣府が平成24年に実施した「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現に影響を与える生活環境に関する意識調査」（対象：20代～50代の男女2,500人）によると、次のような結果となっています。



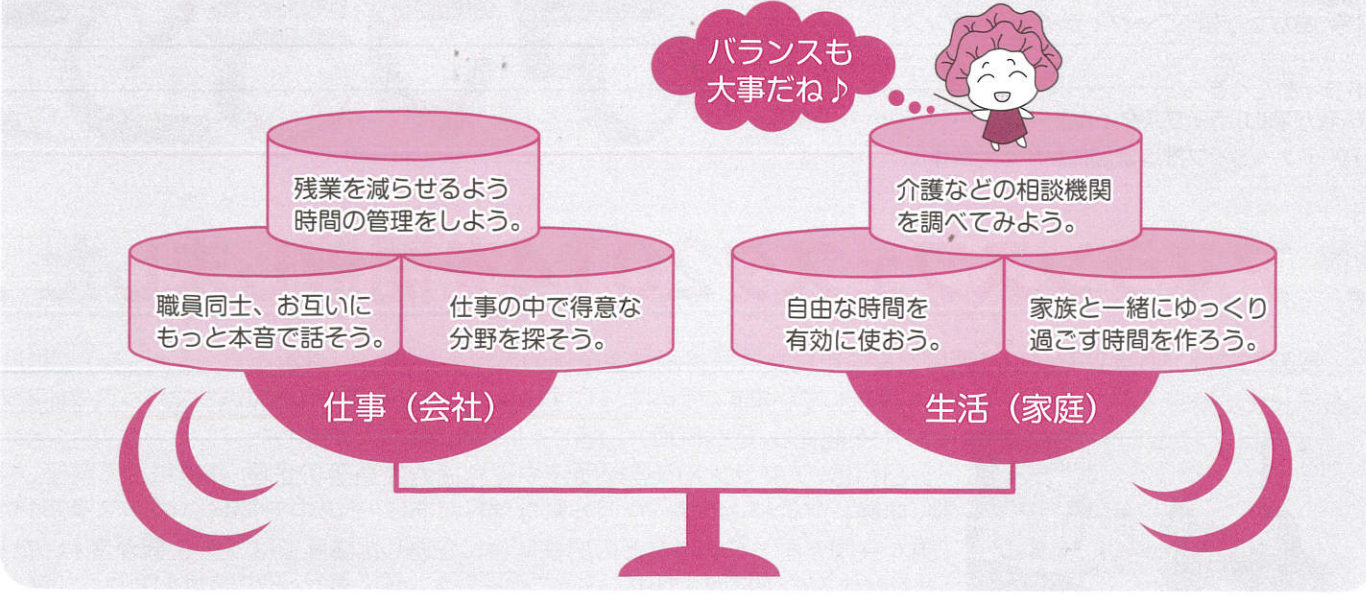
男性の48.6%は「仕事」を優先しているのが現実ですが、希望としては「仕事」「生活」をともに優先したいと、50.5%と半数以上が両立したいと考えているようです。女性の47.8%は「生活」を優先しているのが現実ですが、希望としては「仕事」「生活」をともに優先したいが46%、「生活」を優先が43.9%と同じくらいの比率となっています。男女とも「仕事」と「生活」をともに優先したいと希望するものの、実現しているのは希望の半数以下となっています。

2 「仕事」や「生活」に対して、それぞれどんなことを思っていますか？

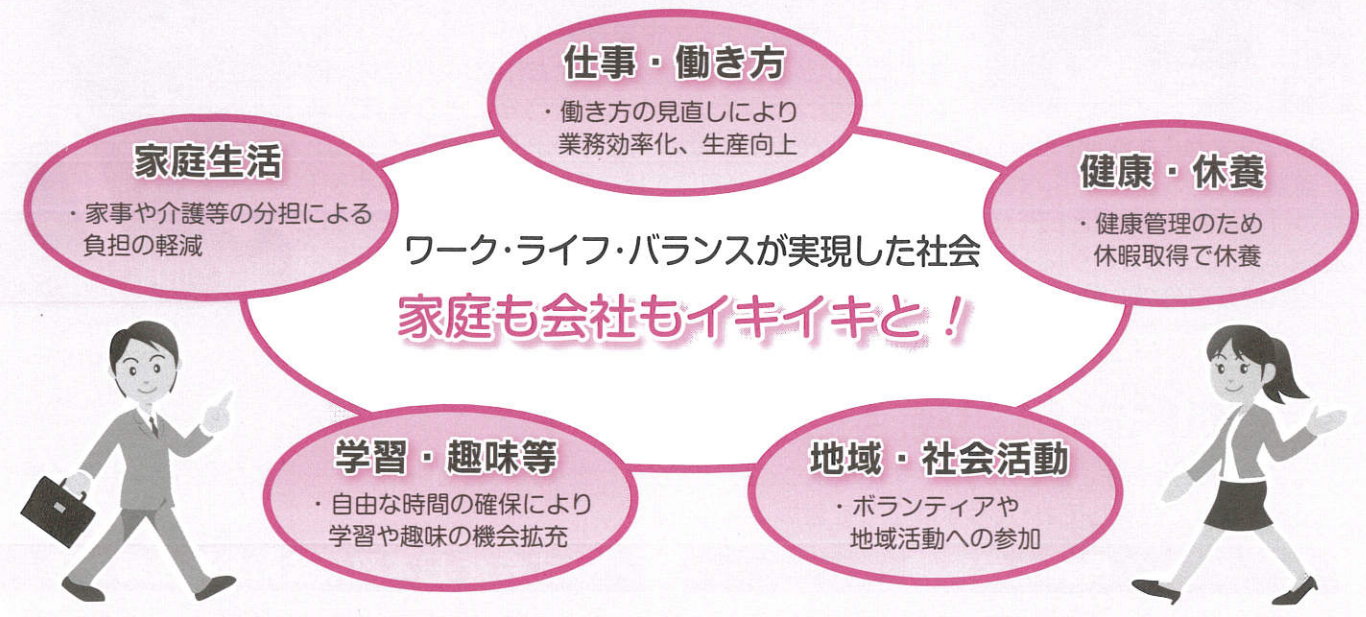
仕事（会社）に対するつぶやき	生活（家庭）に対するつぶやき
<ul style="list-style-type: none"> 上司が、定時に帰ると帰宅しやすい（男性） 子どもの学校行事に気がねなく出たい（女性） 社内保育園があると復帰しやすい（女性） 有給休暇が取りやすい職場がいい（男性） 仕事をしたいが資格がないから不安（女性） 	<ul style="list-style-type: none"> 親の介護などを考えると将来が不安（男性） 家族と、コミュニケーションを増やしたい（男性） 定年後は夫と趣味を見つけて楽しみたい（女性） 家事等を見直して、自由な時間を持ちたい（女性） サークル活動で色々な人と出会いたい（男性）



3 それぞれの「思い」を自分なりの「行動」にうつしてみよう！



4 仕事（会社）も生活（家庭）も大事。両立できる社会へ！



思いから始める「ワーク・ライフ・バランス」

あなたは、「何のために」働きますか。「生活費を得るため」「家族を養うため」「趣味のため」「社会に貢献するため」など、それぞれの目的があることでしょう。現代社会は、家族のかたちや就業スタイル、個人・社会生活など、あらゆる面において多様化が進んでおり、これが標準、典型的といった“ことば”で表せる特定のモデルが存在しない社会だと言えます。それぞれの生活に応じて、仕事と生活の調和を図ることで、あなたの人生がイキイキとしたものになると思います。あなたも「ワーク・ライフ・バランス」への一歩を踏み出してみませんか！